

Kyoto Symphony Orchestra Concert in Tokyo

The Festival of Visiting Japanese Orchestras 2010

地方都市オーケストラ・フェスティバル 2010

京都市交響楽団 東京公演

～ホルンの革命児バボラークの神業&広上淳一で聴く古典ベートーヴェンの美学



指揮：広上淳一（常任指揮者）
Conductor: Junichi HIROKAMI (Chief Conductor)



ホルン：ラデク・バボラーク
Horn: Radek BABORÁK

曲目
Program

プッチーニ：交響的奇想曲
Puccini: Capriccio sinfonico

シューマン：4本のホルンのための小協奏曲へ長調 op.86
Schumann: Konzertstück for 4 horns and orchestra in F major op.86
(ホルン独奏：バボラーク&京響ホルン奏者)

R.シュトラウス：ホルン協奏曲第1番変ホ長調 op.11
R. Strauss: Concerto for horn and orchestra No.1 in E-flat major op.11
(ホルン独奏：バボラーク)

ベートーヴェン：交響曲第4番変ロ長調 op.60
Beethoven: Symphony No. 4 in B-flat major op.60

2010 3/28 (日)

午後3時開演 (午後2時15分開場)

すみだトリフォニーホール

♪2時30分より広上淳一によるプレ・コンサート・トークあり

Sunday, March 28th, 2010 / 3:00 p.m.

Sumida Triphony Hall



京響ホルン奏者：垣本昌芳（首席）、澤嶋秀昌、寺尾敬子
Horn Players of KSO: Masayoshi KAKIMOTO (Principal), Hideaki SAWASHIMA, Keiko TERAO

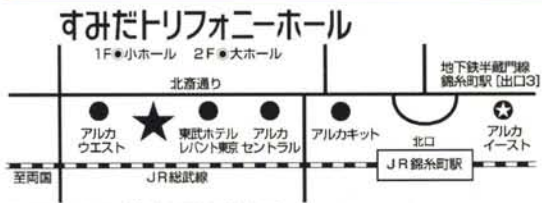
● 入場料
S ¥4,500 A ¥3,500 B ¥2,500

[5公演セット券]
S ¥18,400 A ¥14,400 B ¥10,400
(3/20 大阪シンフォニカー、3/21 大阪センチュリー、3/22 仙台フィル、3/27 群馬響、3/28 京響)
※5公演セット券の取り扱いはいはトリフォニーホールチケットセンターのみとなります。

●ご予約・お問い合わせ
・京都市交響楽団
075-711-3110
・トリフォニーホールチケットセンター
03-5608-1212
・トリフォニーホールチケットオンライン
<http://www.triphony.com> (各1回券のみ)

○団体料金の設定もご用意。詳しくはお問い合わせください。
○都合により公演内容の一部変更となる場合がございます。
○未就学児のご入場はご遠慮ください。

ホール公式携帯サイト



●プレイガイド
・チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:339-359)
・e+ (イープラス) <http://eplus>
・東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
・東京芸術劇場チケットサービス 03-5985-1707

トリフォニーホール託児サービス ご予約・お問合せ 0120-500-315

(株)小学館集英社プロダクション総合保育サービスのHAS
受付時間：平日/月～金(祝日除く)10:00～17:00
ご利用1週間前までに要予約(料金：生後6ヶ月～1歳 ¥3,000、2歳以上¥2,000)



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

主催：地方都市オーケストラ・フェスティバル2010実行委員会、(財)京都市音楽芸術文化振興財団、京都市、すみだトリフォニーホール、大阪センチュリー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、財団法人地域創造、社団法人日本オーケストラ連盟

Kyoto Symphony Orchestra Concert in Tokyo The Festival of Visiting Japanese Orchestras 2010

京響＝広上、2年目の集大成！ 2008年4月に京響第12代常任指揮者に就任した広上淳一の指揮のもと、京響が東京でその2年目の成果を聴かせます！注目すべきは、名門ベルリン・フィル首席を務めるホルンの名手ラデク・バボラークの華麗なるソロ。

「京の響」を東京でも！
見事なテクニックを聴かせるR.シュトラウスの協奏曲だけでなく、京響ホルン奏者との共演によるシューマンの小協奏曲でその神業を披露します。さらに、ブッチーニの劇的な奇想曲と、シューマンが「ギリシャの乙女」と評した古典的な均整美を誇るベートーヴェンの第4交響曲では、京響＝広上が名曲のエッセンスをじっくりと聴かせます。皆様どうぞご期待ください！



Photo: Greg Sailer

指揮
広上 淳一 (常任指揮者)
Conductor:
Junichi HIROKAMI (Chief Conductor)

米国コロロンバス響の音楽監督を務め、数々の名演とともにDenonレーベルにはチャイコフスキーの録音を残し、その実力を内外に知らしめた。2007年夏にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本に招聘され、ハイドンとラフマニノフのプログラムを指揮。2008年5月には小澤征爾の代役で急遽水戸室内管定期演奏会を指揮、聴衆、批評家からともに絶賛された。オペラ指揮の分野でも1989、90年のシドニー歌劇場におけるヴェルディの《仮面舞踏会》や《リゴレット》が高く評価されたのをはじめ、最近では藤原歌劇団公演《椿姫》、関西二期会公演《フィガロの結婚》、日生劇場《後宮からの逃走》、《利口な女狐の物語》が記憶に新しい。また、多忙な指揮活動と並行して、母校東京音楽大学教授としても後進の育成に情熱を注いでいる。2008年4月から京響第12代常任指揮者。



ホルン
ラデク・バボラーク
Horn:
Radek BABORÁK

オーケストラ、水戸室内管をはじめとする世界のオーケストラにも参加。2003年からはベルリン・フィルのソロ・ホルン奏者に就任。ソリストとしても、オーケストラとの共演、チェコ・フィル時代の仲間を中心に結成した木管五重奏団アフラートゥス・クインテットとして活動をはじめ、エマニュエル・バユ、フランソワ・ルルー等の素晴らしいソリスト達とともに室内楽活動も続けている。バボラークの尊敬するホルン界の巨匠ヘルマン・パウマンは「彼の演奏は我々を18世紀の祝祭的な雰囲気へと連れていってくれる。チャミングで柔らかな音色はこの上なく耳に心地よく響く。その演奏の繊細さと表現力の豊かさはホルンという楽器を最高に歌わせ、その解釈は自然な力とナイーヴな素朴さを生み出す」と評している。現在の使用楽器は、「アレキサンダー-103」。

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。第1回キリル・コンドラシ国際指揮者コンクールに優勝し、国際的な活動を開始。1991～95年ノールショピング響首席指揮者、1991～2000年日本フィル正指揮者、1997～01年ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、1998～2000年リンブルク響首席指揮者を歴任する傍らフランス国立管、ベルリン放送響、ウィーン響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響などに定期的に客演。ノールショピング響とは1994年に「来日」公演を実現している。この間、88年に日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会でマーラーの《交響曲第6番》を指揮し成功を収め、91～2000年にはその正指揮者をつとめて、96年の欧州演奏旅行を指揮したほか、R.シュトラウスの《英雄の生涯》やハイドンの交響曲など、多くの瑞々しく壮大な快演を残した。2006～08

1976年チェコ生まれ。8歳よりホルンを学び、89年よりブラハ音楽院でティルシャル氏に師事、みるみるうちに頭角を現していった。94年、難関として知られるミュンヘン国際コンクールで優勝、「美しく柔らかな音色」、「完璧な演奏」、「ホルンの神童」と評されるなど、世界の注目を集めた。以来、ヨーロッパ、アメリカなど各地で活発な演奏活動を展開。小澤、バレンボイム、レヴァインなどトップクラスの指揮者の信頼も厚く、これまでベルリン・フィルはもちろん、ロンドン・フィル、チェコ・フィル、ミュンヘン・フィル、ザルツブルク・モーツァルト管等と共演。その抜きん出たテクニックと若手ながら成熟した音楽が大きな話題になっている。テレマン、ハイドンからモーツァルト、R.シュトラウス、現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、現在もさらにレパートリーを広げつつある。これまでチェコ・フィル、ミュンヘン・フィル、バンベルク響のソロ・ホルン奏者を歴任。その他にもサイトウ・キネン・



京響ホルン奏者
垣本 昌芳 (首席)
Horn Player of KSO:
Masayoshi KAKIMOTO (Principal)



京響ホルン奏者
澤嶋 秀昌
Horn Player of KSO:
Hideaki SAWASHIMA

兵庫県尼崎市出身。16歳よりホルンを始める。1996年、大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コースを卒業。在学中に、ソリストとして、R.シュトラウス作曲ホルン協奏曲第1番を同大学オーケストラと共演する。1996年ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。1996年アジア・ユース・オーケストラのコンサートツアーに参加。1999年1月、関西フィルハーモニー管弦楽団に3・1番ホルン奏者として入団。同団を経て2006年4月、京響に首席ホルン奏者として入団。現在に至る。これまでに、ホルンを野田眞一・守山光三の両氏に師事。早稲田大学高等学校吹奏楽コース、大阪国際滝井高等学校吹奏楽コースのホルン非常勤講師。

1992年大阪音楽大学卒業。1991年在学中に大阪シンフォニカー交響楽団に入団。1992年ドイツ国立アーヘン音楽大学に入学。1994年同大学を最優秀で卒業後、同大学ソリストコースに進む。在学中、同大学オーケストラ定期公演でソリストを務める。またケルン市立歌劇場ギェルツェニヒ管弦楽団の研修生として数々のオペラ公演に参加する。1996年同コースを修了し帰国。ホルンを近藤望、デイビッド・ブライアントの両氏に師事。現在、京響ホルン奏者、滋賀県立石山高等学校音楽科非常勤講師、アーヘン・ホルンカルテット、ジャパンプラスコレクション各メンバー。



京響ホルン奏者
寺尾 敬子
Horn Player of KSO:
Keiko TERAO

兵庫県生まれ。13歳からホルンをはじめる。1990年相愛大学音楽学部器楽学科管楽器専攻卒業。卒業後、大阪芸術大学オーケストラ要員を務める。1991年12月京響に入団。現在に至る。野田眞一、逢坂知訓、故・千葉馨の各氏に師事。京響とホルン・コンチェルトで共演するほか、室内楽等で活躍中。

京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団(京響)は、1956年の創立以来、日本唯一の自治体直営オーケストラとして「市民文化の形成と青少年の情操の向上、住民の福利の増進に資する」という理念に基づいて、我が国を代表するオーケストラとして成長を遂げてきた。06年には創立50周年を迎え、シェーンベルク「グレの歌」京都初演、国内7都市へのコンサート・ツアーなどで成功をおさめた。また、楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、07年「第25回京都府文化賞特別功労賞」「京都創造者大賞2007」受賞。08年4月からは、第12代常任指揮者に広上淳一、京響初の桂冠指揮者に大友直人が就任。09年は、学生からシニアまで気軽にクラシック音楽に親しむことのできる「スプリング・コンサート」、子どもだけでなく大人にもびったりのオーケストラ入門シリーズ「オーケストラ・ディスカバリー」など新たな企画で注目を集め、半世紀という節目を経て、「京響」は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進をはかっている。

